

緑のセンターだより

No.212

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>

発行:令和7年2月1日

講習会のご案内

(講習会の受付は前月の20日から、20日が休館日の場合は、前日の20日から)

講習会の案内は、広報旭川市民「あさひばし」に掲載します

「果樹の剪定と栽培管理」～リンゴ、サクランボ、プラムほか～

とき 令和7年2月9日(日) 午後1時00分～3時00分 定員40名 参加費 無料

講師 ふじくらすも果樹園 代表 増茂 聡さん

※参加希望の方は、緑のセンター(65-5553)へ、お問い合わせください

「家庭菜園の土作り 基礎講座」

とき 令和7年2月16日(日) 午後1時00分～3時00分 定員20名 参加費 無料

講師 緑のセンター相談員

※参加希望の方は、緑のセンター(65-5553)へ、お問い合わせください

「神楽岡公園 冬の自然観察会」～冬の園内を探索しよう～

とき 令和7年2月23日(日・祝) 午前10時00分～12時00分 定員15名 参加費 無料

講師 森ん歩の会 阿久津弘明さん、佐藤 まゆみさん

※参加希望の方は、緑のセンター(65-5553)へ、お問い合わせください

「フラワーアレンジメントづくり」

とき 令和7年3月2日(日) 午後1時00分～3時00分 定員15名 参加費 2,500円

講師 マミフラワーデザインスクール専任講師 澤沼 雅子さん

※講座の受付は、令和7年2月20日(木) 午前9時～

展示会

「神楽岡公園の自然写真展」

令和7年2月28日(金)まで展示中

作品提供:阿久津 弘明さん

緑のセンター温室3月4月に開花の代表的な花



一月桃げつとう



胡蝶蘭(こちょうらん)

【休館日のお知らせ】

11月～3月は、毎週月曜日が休館日です。(月曜日祝日の場合は翌日)



2月の園芸作業

1、鉢花・草花・球根類

- **シクラメン**の花をより長く楽しむためには、25℃以上の高温にならないように留意し、液肥(1,000倍希釈)も与えて体力維持に努めます。
- **ポインセチア**を長く楽しむためには、室温は20～25℃(夜間15～17℃)の日当たりの良い場所に置き、2,000倍程度の薄い液肥を与え、水やり頻度を控えめに育てましょう。
- **カンシラン**の花茎が葉の間から見えたら15～20℃の夜間照明の当たらない部屋に置き、水を与えて花茎を伸ばしましょう。
- **アマリス**の球根は開花予定の35～45日前位に植え替えを行いましょう。新しい通気性の良い用土と、球根直径の2倍サイズの鉢に、球根の首が出るくらいの浅植えにしましょう。

2 庭木・果樹類

- 降雪が多い場合は樹幹や枝の雪払いをします。
- **ツバキ**、**サザンカ**の鉢植えは-5℃以下にならない寒いところに置きます。

3 観葉植物類

- 冬は鉢土を乾かし気味に保つのが基本です。湿度が不足しているようなら葉水や、加湿器を使用するのもいいでしょう。引き続き肥料は施しません。枯葉は取り除き、カイガラムシが発生していたら布や古い歯ブラシなどで擦り落としましょう。
- **ゴムの木類**などは浴室のシャワーで、葉の汚れを洗い落とします
- **ポトス**などのつる性の種類は伸びすぎたつるを剪定し、姿を整えます。

4 多肉植物・サボテン類

- **コフィツム**などの冬型種でも最低温度5℃以上を確保し、日中はしっかりと日に当てましょう。水やりは冬型種で7～10日程度、春秋型種は月1～2回、用土が湿る程度に与えましょう。



3月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

- **フリムラ類**、**シクラメン**など開花中のものは管理が良ければ咲き続けるので、暖房の効いた部屋を避け、10～15℃程度の涼しい場所で、3,000倍に薄めた液肥を定期的に施します。
- **ゼラニウム**、**ハイビスカス**などは切り戻し剪定を行い、新芽を発生させて草姿を整え花付きを良くしましょう。
- **花壇用草花(ベコニア、ペチュニア、コリウス、マリーゴールド)**などの育苗も中・下旬頃より開始します。ピートバンを用いては種し、ポリ鉢やプラグトレイへ移植して50～60日間の育苗になります。

2 庭木・果樹類

- **ツバキ**などの低花木は、雪解け時に積もった雪が沈み、枝折れや幹折れなどの被害が心配です。株の周りの除雪をして防ぎましょう。
- **果樹類(ナシ、リンゴ、オウトウ、スモモ)**では3月に入ると寒さも和らぎ、凍害の恐れも少なくなり、剪定時期となります。樹の大きさを制限し、着果を良くし、摘果・収穫等の作業を良くし、品質の良い果実を安定して収穫するための大切な作業です。

3 観葉植物類

- 日当たりのよい場所に置かれているものは、新葉の展開も目立ってきます。新芽が動き出している株には薄めの液体肥料を施しましょう。
- 茎や葉が光の方向に傾く場合は、鉢を180度回転させてバランスを整えましょう。

4 多肉植物・サボテン類

- 日が長くなり、昼間も暖かく春めいてきます。一部休眠中の種類を除き、多くの多肉植物が育つ季節です。
- **エケベリア**、**ハオルチア**などは生育状況を見ながら水やりを控えめに育てます。植え替えのできる種類も多くなります。

〈我が家の庭づくり〉 冬編 融雪剤の散布方法

「厳冬期も終わりに近づき日差しが強まり、雪解けが始まるこの時期に融雪剤をまきましょう」

* 畑や庭に融雪剤をまく理由

- 融雪剤を撒くことで、撒かなかった時と比べ7～10日雪解けが早まります。
 - 融雪が早まるので畑の土が早く乾き、庭の春作業が早く始められる。
 - 〇辺りから雪が無くなることで、地温(地面の温度)が上がり早春の花の開花が早められたり、低温で発芽する種子の種まきを始められる。

注意: 宿根草では早く雪が無くなると、地表面の凍結で株が持ち上がったたり凍害を受けて枯死することがあります。畑や庭の状況に応じて、全面散布ではなく、融雪を早めたい所や残雪が多い場所に部分散布すると良いでしょう。

* 融雪剤の種類

- 旭川の農家さんでは、防散融雪タンカル・ケイカルブラック・ホクショウブラック 籾殻燐炭などが使われています。籾殻燐炭はホームセンターでも売っており 土壤改良効果・酸性土壌の中和等環境にも優しい資材なのでお勧めします。
 - 市販の物にこだわる必要は無く、黒色や茶色で植物の害にならないのであれば使っても問題ありません。(黒土・ピートモス・腐葉土・堆肥・コーヒーかす)
- 注意:** 庭の土やプランターで使用した土は、秋口にふるいでゴミや粗い物を取り除き、しっかりと乾燥させておくこと散布時にムラ無くきれいに撒かかります。

* 散布時期と方法

- 時期は3月中旬以降で、風向きを考えて風上から風下へと作業を進めます。



融雪後すぐに咲き出した福寿草

植物の害虫 ぶどうの新害虫「チャバネアオカメムシ、ブチヒゲカメムシ」

令和5年8月中旬、中央農業試験場(長沼町)で栽培される醸造用ぶどう畑の果実肥大期に、大型のカメムシ類成虫が多数飛来し、果実の吸汁被害が発生しました。また、空知及び後志地方の一般ぶどう園においても令和6年8月以降に同様の被害が確認されています。旭川市においては、まだ確認されていませんが、今後の発生動向には注意が必要です。被害果の症状は、口針の差し込まれた箇所黒点が生じ、周辺が変色・陥没。その後は腐敗するか、腐敗を免れて収穫に至った果実でも成熟が遅延する傾向で、小粒化や糖度低下も認められました。北海道ではこれまで、チャバネアオカメムシはリンゴ及びオウトウに、ブチヒゲカメムシは水稲、大豆、いんげん、ハスカップに被害事例があるものの、ぶどう

の被害は今回が初となります。

いずれのカメムシも北海道においては、年1回の発生であると考えられ、ぶどう果実に加害するのは新成虫よるものと推測されています。(参考・引用文献 北海道病害虫防除所)



チャバネアオカメムシ

ブチヒゲカメムシ



タイリントキソウを楽しむ

タイリントキソウ(台湾や中国の高地が原産)は、小型・球根性の春咲きのランです。花が美しいので昔から知られていたものの、25℃以上の高温を嫌い、流通量も少ないことから一部の趣味家が楽しんでいる程度の認知度でした。しかし、勘どころさえつかめば旭川での栽培はそれほど難しくなく、当センターでも毎年増殖させて、参観者の方々に喜んで頂いているので紹介します。

まず旭川では、① 今年、花を咲かせた球根は一年の命。この球根が次世代を育てあげるには、② 花が痛み始めたら花首を切り、茎葉を5月～晩秋まで戸外で肥培管理する。③ この間に茎葉の基部が大きく膨んで、翌春に花を咲かす新球根(直径2cm 以上)へと生長する。④ 新球を育てあげた親球は晩秋に役割を終える。11月中旬、黄化した葉を落として休眠に入った新球根を親球から外して(植え付け固定用に根を少し残す)ビニール袋に入れ、冷蔵庫の野菜室で保管する。⑤ 翌年2月末、新芽が見える方向にスペースを確保しながら球根の 1/4 ほどを浅植え(残した根を伸ばしてミズゴケを少量巻付けると固定しやすい)する。⑥ 植え付け後は 50 日程で開花するが、花を長持ちさせるためには室温が 10～15℃程度の場所で観賞すると良い。

< 球根の世代交代 と 翌年に花を咲かせる新球根を育てるポイント >

- 1、花後の栽培環境・日当たり・置き場・・・春に霜の心配がなくなったら、穏やかな風が通る戸外で晩秋まで茎葉を育てる。西日は葉焼けしやすいので日差しが強い場合は葉焼け防止に 50%程度遮光する。
- 2、水やり・・・水切れすると葉枯れするので、春から秋の生長期には用土が常に湿った状態を保つ。受け皿は置かない。新球根の生長が終わった 10 月中・下旬、葉の黄化が始まったら水やりを減らす。
- 3、肥料・・・5～9月の生長期には、固形肥料(油かす)であれば月に 1 回置き肥する。液体肥料であれば 2,000 倍を 10 日に 1 回のペースで与え、9月末で肥料は中止する。7 月下旬～高温時は与えない。
- 4、植えつけ・植え替え・・・旭川の場合は毎年。冷蔵庫の野菜室で新芽が動き出す 2下～3月上旬に、小さめの鉢に植えつけする。用土は、水に戻したミズゴケに鹿沼土(小粒)を2～3割ほど混合すると成績が良い。

展示室の植物 (118)

ビワ(枇杷)

学名: *Rhaphiolepis bibas* バラ科 シャリンバイ属



「桃・栗=3年、柿=8年、ビワ=13 年」と言われますが、ビワは種子から育てて結実するまでに長い年月を要する果樹の一つとして知られています。原産地は中国南部。寒さに弱いことから北海道では馴染みが薄いものの、古くから関東以西方面の暖地で栽培され、食用・薬用・縁起物・木刀などに利用されてきました。

移植を嫌い、一本の木でも実がなる性質なので、当センターでは鉢植えにして、夏季間は屋外で・・・秋から翌春までは温室に取り込んで花や実、異国情趣を参観者に楽しんでいただいています。